

【所信】

2022年度 理事長 干場文孝

【はじめに】

昨年、2020年に開催される予定であった東京オリンピック・パラリンピックが一年の延期期間を経て開催されました。本来であればこの東京オリンピック・パラリンピックにおいて訪日外客数が増加し、インバウンドによる地方の活性化や日本の景気回復など日本の明るい未来に向けて大きな弾みとなる大会であったに違いありません。

2020年から現在にかけて未だに終息の兆しが見えない新型コロナウイルスによるパンデミックは、世界規模においての経済や社会のみならず我々の日常生活までも大きな混乱と影響を与えています。多くの国での海外渡航制限や日本への入国制限による訪日外国人の大幅減少に伴うインバウンド需要の消失や外出自粛や他県との往来自粛など人の移動、人と人の接触の制限で国内の個人消費も低迷し地域だけではなく日本経済全体にとっても大きく深刻な打撃を与えました。また、日常生活においても日々の行動制限や働き方・生活様式の変化などによる人々への負担も少なくはありません。そして、近年各地で起こっている異常気象による自然災害などにおいても同様な事が言えると思います。このようないつ何が起こるのか分からない時だからこそ、我々青年会議所が率先して持続可能な地域を創造していく為にこの地域に何が必要なのか、何をすべきなのかを模索し、時代の変化を捉えながら柔軟に対応や行動をしていかなければならないのではないのでしょうか。JC宣言にもあるように希望をもたらし変革の起点として輝く個性が調和する未来を描きながら持続可能な地域を創っていくよう活動に邁進してまいります。

一般社団法人上田青年会議所は、1959年地域の未来を見据え熱い想いと高い志を持った当時13名の諸先輩方が発起人となり創立され活動が開始されました。創立から3年後の1962年、長野青年会議所のスポンサーJCのもと全国222番目の青年会議所として日本青年会議所に認承され、昨年度上田青年会議所は認承60周年の節目の年を迎えることが出来ました。これも創立から64年という長きに亘り、先輩方の熱き想いと高い志のもと脈々と受け継がれて来られた伝統と多くの活動による功績があったからこそだと考えます。我々現役メンバーは、この先JC活動を行っていく上で先輩方が築き上げてこられた歴史や功績をしっかりと捉え、創立当初から受け継がれて来ている高い志と熱い想いを胸に活動していくと共にその想いを後世へ継承し、認承60周年において策定されたNEWVISION「生きろ。」のもと活動へ邁進してまいります。

【NEWVISION達成に向けての第一歩】・・・LIVE!NEWVISION推進委員会

昨年度、上田青年会議所は認承60周年の節目の年を迎え、次なる未来に向け歩み始めました。これまでの長きにわたる歴史は、脈々と受け継がれている先輩方の高い志と熱い想いのもと、この地域の為に地域から必要とされているものを常に考えながら活動し、様々な形となって地域の創造へと繋がっているからであると考えます。60周年という節目を迎えた今、時代の流れは目

まぐるしく変化していますが我々メンバーはいち早く変化を捉え、今後より良い地域の創造へと繋げていく為にも先輩方から受け継がれてきている高い志と熱い想い、そして誇りを継承しながらも発展し続けていく必要があるのではないのでしょうか。

認承60周年においてを新たに策定されたNEWVISIONは、認承50周年時に策定された上田JC未来ビジョン「笑顔あふれる地域～繋げよう輝く未来へ～」の達成に向け活動してきた10年間の検証結果のもと、今ある地域課題に対して我々上田青年会議所がこの先の未来を見据えどのような地域未来の創造し活動をしていく必要があるのかを示す標（しるべ）となります。本年度は、新たに策定されたNEWVISION達成に向けて第一歩を踏み出す年となります。改めて、上田青年会議所メンバー一人一人がNEWVISIONに対する共通の認識と理解、そして熱い想いを持ちNEWVISION達成に向けて第一歩を踏み出せるよう活動してまいります。

【可能性と希望あふれる子育て】・・・LOVE！あふれる子育て委員会

地域未来を担う子どもたちの取り巻く環境はこの10年でインターネットなどのICT（情報通信技術）の発達、スマートフォンやタブレット端末などのデジタルデバイスの普及など時代とともに急速な変化を遂げ、今もなお日々変化し続けています。子どもたちのコミュニケーションの取り方や遊び方においてもSNSやITツールなどを通じて多様化しておりそこに費やす時間も増えたことで大人たちが育ってきた時代のように子ども同士が顔を合わせて自然の中で遊んでいる光景が少なくなっています。それに加えて、昨今の新型コロナウイルスの蔓延において学校行事の中止やオンライン授業への切り替えなど子どもたちの人との関わる機会も減少しており、親たちも共働きが当たり前になってきている現状の中で子ども同士の関係性や親たちとの関係性、そして地域の人との繋がりも希薄になって来ています。便利になることは決して悲観することではありませんが、このままで本当にいいのでしょうか。子どもたちの置かれている環境も様々ですが、その環境も考慮しながら我々大人たちが感じてきた感性や習慣を伝え残していくことも必要であり、子どもたちの今後の可能性も広がっていくものと考えます。核家族化が進み子育てに悩んでいる大人や親たちも地域の子どもから多くを学び共に成長し共に生きることを考えていけるよう模索しながら次世代の子どもたちの可能性と希望があふれる「子育て」を推進してまいります。

【活気・活力へと繋げる地域の魅力発信】・・・FINE！あふれるわっしょい委員会

我々が暮らすこの地域には多くの地域資産や観光業をはじめとした様々な産業など沢山の魅力があります。認承50周年から昨年度迎えた認承60周年までのこの10年、上田青年会議所では認承50周年に策定された上田JC未来ビジョンの達成に向け1つの柱である「NEWぶらんど」の創造・発信のもとこの地域の魅力について様々な事業を行ってまいりました。それに加え、2016年にはNHK大河ドラマ「真田丸」の放映を境に多くの観光客が訪れるようになり、この地域の歴史や文化などの地域資産、産業など多くの魅力を国内外の方々に認知してもらうこと

が出来たものと考えます。さらには2020年6月に「信州の鎌倉」とも呼ばれている信州上田・塩田平が新たに日本遺産として認定を受けたことで益々観光客が増え、より多くの人々がこの地域に訪れることが予想されました。しかし、今もなお終息する気配を見せない昨今の新型コロナウイルス蔓延において、多くの国での海外渡航制限や日本への入国制限などによるインバウンド需要の消失、国内での外出自粛や他県との往来自粛など人の移動、人と人の接触の制限で観光客は減少傾向にあり主要な産業の一つである観光業が大きな打撃を受けました。そのような中でも悲観的になることはありません。ここ近年「マイクロツーリズム」という言葉が提唱されクローズアップされています。新型コロナウイルスの感染拡大防止するため政府よりテレワークの推進が進められており、都心からのアクセスが良いこの地域も移住需要は増加することでしょう。そのような状況があるからこそ、地域資源を生かし、知られていないものも含めたこの地域の魅力を発信し続け地域の活気・活力へと繋げていくことが必要であると考えます。

また、半世紀前に「市民総和楽」の理念のもと当時の上田青年会議所の先輩方が熱い思いを持ち立ち上げ、現在この地域の代表的なお祭りのひとつにもなっている「上田わっしょい」。この「上田わっしょい」は、上田青年会議所にとっても先輩方からの熱い思いと伝統を脈々と受け継がれている大切な伝統事業となっています。昨年は50回目という節目の年でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされました。本年51回目を迎えるにあたり、先輩方から半世紀にもわたり継承され続けている変わらぬ熱い思いと昨年開催できなかった分の地域の皆様の思いを乗せ、我々が先頭に立って上田市の誇るこの「上田わっしょい」を更なる発展へと繋げてまいります。

【未来を見据えた組織力の向上】・・・組織力向上EVOLUTION！委員会

青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別はなく、自由な個人の意思により入会する事が出来ます。上田青年会議所では、設立当初から先輩方の熱き思いと高い志のもと脈々と受け継がれて来られた伝統と地域のため、会社・家族のため、自己成長のためなど、様々な目的と誇りを胸に日々JC活動をしています。かつて100名を超える会員が在籍していた時代もありました。しかし、全国の青年会議所を見ても会員数は減少と経験年数の不足が課題となっています。我々上田青年会議所も例外ではありません。時代の流れの変化の中で少子高齢化が進み会員数の減少と経験年数の不足が最重要課題であると考えます。

近年の上田青年会議所において、会員拡大運動を積極的に行って来たこともあり少しずつですが会員数が増加してきています。会員数が増えていることはJC活動を行う上でとても心強く思いますが、半数以上が経験年数の浅いメンバーと多く、どのくらいのメンバーが上田青年会議所の魅力を感じ同じ志を持ちながら活動が出来ているのでしょうか。メンバーそれぞれ家庭や会社など様々な事情はありますが、上田青年会議所の魅力、そして同じ志が持てなければJC活動に対しての熱意や出席率の低下、そして組織力の低下へと繋がってしまうのではないかと考えます。認承60周年を迎えた今、「明るい豊かな社会」の実現に向けて上田青年会議所全メンバーが一つとなり活動をしていく為にも組織力をより強固なものにすることが急務です。事業を通じて上

田青年会議所の魅力、また活動に対しての理解を深め、メンバー一人一人個々の資質向上を図り、組織力の向上へ繋げていけるよう活動してまいります。

また、新型コロナウイルスの影響で先の見えない厳しい状況下ではありますが、この状況下であるからこそ我々が地域の未来を見据えながら活動していくことの必要性をこの地域の同世代の青年たちに示し共感を生むことで更なる会員拡大へ繋がるのではないのでしょうか。そう言った活動ができる上田青年会議所の存在価値と魅力を発信し続け、全メンバーが一丸となり、一年間を通じて積極的な会員拡大運動を推進してまいります。

【事務局】・・・J Cをつなぐ事務局

上田青年会議所が「明るい豊かな社会」の実現を目指し活動を続けていく上で事務局は欠かすことの出来ない委員会であります。LOMの屋台骨としての役割を担っており、LOM運営をはじめ、事業に対するメンバーへの参加推進、そして上田青年会議所の基盤となる総会や理事会など各会議の設営・運営、出向者へのサポートや渉外活動など大変多くの担いがあります。先輩方から受け継がれて来ていることの中で「当たり前のことを当たり前に行っていく」という言葉がありますが、昨今の新型コロナウイルスの影響において当たり前のことを当たり前に行うことが難しい状況にあります。そのような時代や状況の変化にも臆することなく、事務局としての担いを着実にやっていくことで更なる個の成長、LOMの成長へと繋がっていくものと考えます。決して目立つことのない事務局ではありますが、我々が行っている事業一つ一つの活動が地域により広く認識されるよう情報発信を含め、メンバーがJ C活動に参加しやすい環境づくりなど細部まで気を配ったよりよいLOM運営に邁進してまいります。

また、近年では公益社団法人日本青年会議所、北陸信越地区協議会、長野ブロック協議会へ役付きで出向するメンバーが増加しており、本年も多くのメンバーをそれぞれの出向先へ輩出します。上田青年会議所として出向メンバーが各地域において活躍できるようサポート体制を整えてまいります。

【最後に】

私は、2013年に上田青年会議所へ入会し、今年で9年目を迎えました。9年という長い月日の中で青年会議所において普段ではなかなか出来ない貴重な経験や体験によって多くのことを学び、多くの先輩や仲間に出会うことが出来ました。

入会当時、私は青年会議所というものがどのような団体なのか分かっておらず、活動に対して本気になれていない自分がいて時には辞めたいとまで思ったこともありました。しかし、一年一年の活動を通じて多くの先輩方や仲間と出会い、様々な姿を近くで見させていただき、そして私自身も貴重な経験や体験をさせていただいたことで考え方も変わって来ました。青年会議所活動では多くの時間を費やしますが、その反面普段ではなかなか経験や体験の出来ないことばかりであり、そこには多くの学びや出会いがあります。その時間こそが40歳という限りのある時間の中でとても貴重で青年会議所の魅力の一つだと思います。その青年会議所一つ一つの活動が地域

のためでもあり、結果として自己成長にも繋がります。

2022年度、理事長という大役をお預かりさせていただくにあたりこれまで受けてきた沢山の恩を2022年度一般社団法人上田青年会議所に返していきたいと思います。また、今日まで多くの先輩方や仲間に教えていただいたことや私自身が経験・体験したことなどをメンバーに伝えていきながら、上田青年会議所全メンバーと共にこの地域の為、会社・家族の為、そして自分自身の為にJC三信条「修練」「奉仕」「友情」を胸に一年間活動に取り組んでまいります。

基本事業

- ・NEWVISION達成に向け第一歩となる事業の実施
- ・可能性と希望あふれる子育て事業の実施
- ・地域の魅力を発信し活気・活力へと繋げる事業の実施
- ・組織力の向上を図る事業の実施
- ・上田わっしょい事業の実施
- ・メンバーみんなでSGDsの意識を高め推進する
- ・メンバー一丸となった会員拡大運動の実施